

2004 年 9 月 1 日浅間山噴火によって黒斑山北麓で発生した矮低木群落火災

早川由紀夫 (群馬大学教育学部)

Alpine shrubland fire caused by September 1st eruption of Asama, elevation 2000 m,
1.7 km from summit crater.

Yukio Hayakawa, Gunma University

2004 年 9 月 1 日 20 時 02 分に発生した浅間山の爆発で、山頂火口から 1.7 キロ離れた標高 2000 メートル地点 (J バンドの北、地元で白八ゲと呼ばれる荒地の上の緩斜面) で、矮低木群落の火災が発生した。燃えたのは、山肌をじゅうたんのよう覆っていたガンコウラン-ミネズオウ群落だった。クロマメノキも認められる。それらがつくるじゅうたんの厚さは 5 センチ程度である。80 メートル四方内が斑状に燃えた。この群落のすぐ下にある森林はまったく燃えなかった。

この群落を焼いたのは、ブルカノ式爆発によって山頂火口から投げ出された高温の火山弾だった。直径 1 メートルの火山弾がクレーターの中に残っていた。燃え残ったガンコウラン-ミネズオウ群落には、焼け焦げをつくっている直径数センチ程度の破片が多数見つかった。この火山弾が地面に衝突したときに飛散した破片であろう。

夜間に起こったこの山火事は、テレビニュースでヘリから大写しにされたこともあって、新火口の形成あるいは溶岩の流出ではないかと住民を惑わした。

調査した地域は 4 キロ警戒区域内だが、小諸市長から特別の許可を得て、小諸市職員 1 名とともに 9 月 3 日に行った。植物の同定は、石川真一さん (群馬大学社会情報学部) にお願しました。



この立体図は、カシミール 3D を使って作成しました。